

福祉介護犬

JJ1SXA 池

標題は、皆さんには馴染みがあるでしょうか？ 多分、盲導犬は知っているが？というのが、大部分の方かと思われそうですが、いかがでしょう。

福祉介護犬とは、**盲導犬・聴導犬・介助犬**の総称です。

視覚障害者が道路を歩く場合は、白杖を携えるか、白または黄色のハーネス(胴輪)を着けた盲導犬を連れていなければいけないと、道路交通法に定められていますし、また、同法に、盲導犬の定義も定められています。

道路交通法施行令によって国家公安委員会が指定する「盲導犬の訓練を目的とする法人」で「盲導犬として訓練された犬、または盲導犬として必要な訓練を受けていると認められた犬」が**盲導犬**です。

忠実で賢くおとなしい性格を持ったラブラドル・レトリバーが、盲導犬として訓練を受け、盲導犬として採用されるそうで、一般のペットとは異なり、電車・バス等の交通機関や宿泊施設、飲食店、病院などの利用も認められています。

全国の盲導犬は約800頭くらいで、まだまだ数が足りないのが現状で、育成に費用がかかること、一般市民に、理解がまだ徹底していないこと等が、数が足りない要因になっているようです。

聴導犬の仕事は、家屋の中で、必要な音を知らせる事(例えば、目覚まし時計の音、ドアベルの音、電話や**FAX**の音等)の他、どこにでも同行して、聴覚障害者の方々を災害や事故に巻き込まれる危険性を回避することも期待されています。

2001年2月に、大阪で働く聴導犬「みかん」が**JR**西日本の乗車試験を受け、合格までに至った理由も「聴覚障害者の耳」として、その生命を安全に保つことが、聴導犬の大きな仕事と認められたからです。

介助犬は、車椅子生活をおくる肢体障害者を助けるよう訓練された犬です。

盲導犬が視覚障害者の外出時に目の代わりにするように、常に身体障害者に寄り添い、生活の中で不便なことを介助します。

代表的な介助には、新聞・カバン・携帯電話・書類などをマスター(介助犬を必要とする肢体障害者)の元に運ぶとか、前足でドアの把手を押す・引く、エレベーターのボタンを押す、電気のひもを引っ張り明かりをつける、空の車椅子を手前に引っ張ったり、マスターが車椅子に乗っている時に、車椅子を引っ張る等、約**30**種類以上の動作を教え込まれて、幅広い介助をするそうです。

近年、バリアフリーが叫ばれ、身体に障害を持った人達が、一般社会で活躍できる機会、場は増えていますが、まだまだの部分が多い事でしょう、積極的な手助けに至らないまでも、障害者に関する知識を学び、理解する必要があると思います。